



Oracle® Hyperion Financial Close Management

リリース 11.1.2.3

New Features

ORACLE
ENTERPRISE PERFORMANCE
MANAGEMENT SYSTEM

目次

| | |
|------------------------------------|---|
| リリース 11.1.2.2.350 に導入された機能 | 2 |
| リリース 11.1.2.2.300 に導入された機能 | 4 |
| ドキュメントが Apple モバイル・デバイスで動作保証 | 5 |
| 以前のリリースで導入された機能 | 6 |

リリース 11.1.2.2.350 に導入された機能

半自動タスク

タスク所有者は、タスクを実行する準備ができるまで、自動タスクに必要なパラメータの設定を延期できるようになりました。現時点で設定しない場合は、電子メール通知が送信され、タスクは必須パラメータが入力されるまで遅延します。

完了までの実際の時間列属性

この Close Manager 機能では、タスク・リスト、ガント・ビューおよび BI ダッシュボードに「実際の期間」が表示されます。

フォーマットに対する非表示チェック・ボックス・オプション

Account Reconciliation Manager には、サブシステムの残高、および残高の比較メソッドでの説明のない差異行に対する非表示チェック・ボックスができました。

「ネット・アクティビティ」属性 - 前の調整から

Account Reconciliation Manager で、勘定科目に対して実行された最後の調整からの勘定科目の金額の変化を測定できるようになりました。

頻度の関係

各期間に使用する頻度を指定できる「含む」頻度を明示的に選択できるようになりました。

拡張されたデータ・ロード・オプション

残高をインポートすると、「完全リフレッシュ」オプションは既存のデータをパージしてクリーン・データを再インポートします。既存のデータ・ロードに対するすべてのステージが完了するまで、同じ場所で新規データ・ロードを開始できません。

詳細なユーザー割当て

詳細なチーム割当て機能には 3 つの部分があります。

- 「チーム割当て:」 この機能では、策定者、レビュー担当者、参照者およびコメント作成者をチーム (ARM で定義およびメンテナンス) または Shared Services グループに割り当てることができます。

- 「バックアップ割当て」: この機能では、管理者またはパワー・ユーザーが、プロファイルまたは調整インスタンスのバックアップ策定者またはレビュー担当者を指定できます。調整により、プライマリ・ユーザーが外出中の場合はバックアップ割当てに戻ります。
- 「再割当て要求」: この機能により、策定者およびレビュー担当者は、調整の再割当ての要求を管理者およびパワー・ユーザーに送信することで、1つ以上の調整に対する策定者/レビュー担当者の割当てに異議を唱えることができます。

データ・ロードへのスケジュール・オプションの追加

これらの機能により、データ・ロードをスケジュールに基づいて実行できます。管理者は、Account Reconciliation Manager でデータ・ロードを作成し、Windows タスク・スケジューラや Cron などの任意のスケジューラを使用して特定の日付/時刻に実行するようスケジュールできます。スケジュール済データ・ロードの実行のステータスは Account Reconciliation Manager で監視できます。

通貨の編集 UI

カスタム通貨により、顧客はシードされた通貨と同様に Account Reconciliation Manager 全体で使用できる新しい通貨コードを追加できます。

自動調整に対する拡張

自動調整が拡張され、5つの新しい方法が含まれました:

- 「残高はゼロで、アクティビティはありません」
「ソース・システムの残高」はゼロであり、「ソース・システムの残高」は前の調整の「ソース・システムの残高」と同じです。
- 「アクティビティはありません」
「ソース・システムの残高」は前の調整と同じです。
- 「残高は範囲内です」
「ソース・システムの残高」は承認された範囲内です。
- 「残高は範囲内で、アクティビティはありません」
「ソース・システムの残高」は承認された範囲内であり、「ソース・システムの残高」は前の調整の「ソース・システムの残高」と同じです。
- 「残高一致(許容差数)」
「ソース・システムの残高」と「サブシステムの残高」の差異は許容値以下です。許容値はプロファイルで指定されます。

要約調整

要約調整では、組織が1つのレベルで調整を準備し、上位レベルで2番目のコンパイルを実行してレビューできます。たとえば、調整を国内の会社勘定レベルで準備し、勘定レベルのすべての会社に対して企業で再び統合およびレビューできます。

リリース 11.1.2.2.300 に導入された機能

Oracle Browser Look and Feel

Oracle Browser Look and Feel (BLAF+)は、一貫したルック・アンド・フィール(Fusionが深い青なのに対して青とベージュ)、一貫性のある操作モデル、そして最終的には、Oracle eBusiness 製品のスイート全体にわたる一貫したユーザー・エクスペリエンスを提供します。このリリースでは、Financial Close Management はデフォルトで BLAF に準拠します。これはユーザー固有の変更です。

Close Manager の起動オプション

Financial Close Management は、スケジュールやビュー・タイプの指定を含む拡張起動オプションをサポートするようになりました。これが指定されている場合、ユーザーがアプリケーションを最後に終了したときに表示していた内容を表示するデフォルトの動作がオーバーライドされます。

Close Manager システム自動化の拡張

このパッチで、Close Manager はサード・パーティ・アプリケーションでシステム自動化機能を大幅に拡張しています。Close Manager では、同期 Web サービスと、1システム内で複数の呼出しをサポートする機能(自動タスク実行)がサポートされるようになりました。この2つの変更により、Close Manager を現在および従来の財務アプリケーションと統合できます。Oracle Technology Network で Oracle(R) Hyperion Financial Close Management 統合ガイド、リリース 11.1.2.2 を参照してください。

ユーザー・インタフェース・システムの自動更新

Oracle Hyperion Financial Close Management 管理者ガイドの手順が更新されます。

「統合タイプ」ダイアログで、次の Web サービスから選択します。

- 「非同期」
各操作は前の操作の完了後にのみ開始します。
- 「同期」
自動化統合タイプを迅速かつ簡単にサポートできます。たとえば、ジョブを開始する Web サービスを呼び出すことができます。このような Web サービスは常に同期されます。Close Manager の以前のリリースでこのコールをサポート

トするには、クライアントが非同期 Web サービスに同期 Web サービスをラップする必要があります。

- 「ポーリング同期」

Web サービスが応答してプロセスが完了したことを示すか開始時刻期間が失効するまで、指定された同期 Web サービスを繰り返し呼び出します。

Close Manager のグローバル統合トークン

グローバル統合トークン機能を使用すると、パラメータ化された URL を作成できます。URL は、フィルタを適用してレポート・コンテンツを表示するためにパラメータのプロビジョニングを必要とする OBIEE レポートの起動など、様々な目的で使用できます。

Account Reconciliation Manager のグローバル統合トークン

グローバル統合トークン機能を使用すると、パラメータ化された URL を作成できます。URL は、フィルタを適用してレポート・コンテンツを表示するためにパラメータのプロビジョニングを必要とする OBIEE レポートの起動など、様々な目的で使用できます。

Account Reconciliation Manager の期間アクティビティの拡張

2つの新しい属性があります:

- 「前期間」 - 前期間の調整のソース・システム残高を示します。
- 「期間アクティビティ」 - 前期間と現在の期間の調整のソース・システム残高の差異を示します。これらの新しい属性を使いやすくするために、「期間」定義ダイアログに、現在の期間の前の期間を示す新しいフィールド「前期間」があります。期間がオープンされると、前期間を変更できなくなります。

ユーザー定義通貨の Account Reconciliation Manager への追加

使用可能な通貨のリストにカスタム通貨を追加できるようになりました。データベースに通貨を挿入します。

ドキュメントが Apple モバイル・デバイスで動作保証

リリース 11.1.2.3 のドキュメント・ファイルは、以前から使用可能な .mobi ファイルと .epub ファイルの 2 つのモバイル・フォーマットで使用できるようになりました。

た。Oracle Enterprise Performance Management System ePub ドキュメント・ファイルは、すべての Apple モバイル・デバイス(iPad、iPhone および iPod Touch)でサポートされます。ePub は多くのモバイル・デバイスでサポートされますが、Apple モバイル・デバイスでのみ動作保証されています。追加デバイスも将来的に動作保証されます。

以前のリリースで導入された機能

リリース 11.1.2.0、11.1.2.1 または 11.1.2.2 からアップグレードする場合は、Cumulative Feature Overview ツールを使用して、これらのリリース間で追加された新機能のリストを確認します。このツールにより、現在の製品、現在のリリース・バージョンおよびターゲット実装リリース・バージョンを識別できます。1回のクリックで、ツールは現在とターゲットのリリース間に開発された製品機能の概要説明のカスタマイズされたセットをすばやく生成します。このツールはこちらにあります:

<https://support.oracle.com/oip/faces/secure/km/DocumentDisplay.jspx?id=1092114.1>

著作権情報

Financial Close Management New Features, 11.1.2.3

Copyright © 2013, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: EPM 情報開発チーム

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS:

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。